

「モンゴル帝国継承国家論の再検討」プロジェクトの趣旨と今後の展開

柳澤 明

1. 本プロジェクトの展開の可能性

◆「継承国家論」を狭義にとらえた場合

⇒モンゴル帝国解体後における王権・称号の継承，正統性の根拠

- ・北元，ダユン・ハーン以降のモンゴル，西モンゴル（オイラド）
- ・ジュチ・ウルス系諸政権（カザン，アストラハン，クリム，シビル，ウズベク，カザフ）
- ・ティムール帝国，モグーリスタン，ムガル帝国
- ・ロシア帝国，清朝

◆広義にとらえれば，さまざまなテーマ設定が可能

例1) 中央ユーラシアにおける王権のありかた

⇒モンゴル帝国以前に遡及可能

「集会・選挙による有能なリーダーの選出」と「特定家系による君主位の継承」という2つのテーゼの関係

匈奴，鮮卑，柔然，突厥，ウイグル，契丹 etc.

スキタイ，フン，アヴァール，キプチャク（ポロヴェツ） etc.

例2) 近世モンゴルにおける秩序感覚・身分感覚

清代モンゴルにおけるノヨン／アルバト，タイジ／アルドの界限

たとえばオイラドやブリヤートではどうだったか？

例3) 近現代の「民族」

ナショナル・アイデンティティ（あるいはエスニック・アイデンティティ）におけるモンゴル帝国の残像

⇒モンゴル国，中国領内のモンゴル，ブリヤート，カルムク

比較検討という視点で中央ユーラシアの他地域にも敷衍可能

2. 今後の進めかた

◆各年度ごとに重点的に扱うサブテーマを選定

◆いくつかのサブテーマを決めて，年度をまたいで並進

◆研究会・シンポジウムの開催

◆成果発表の方法：機関誌 or 年報発行？ WEB上での公開？